

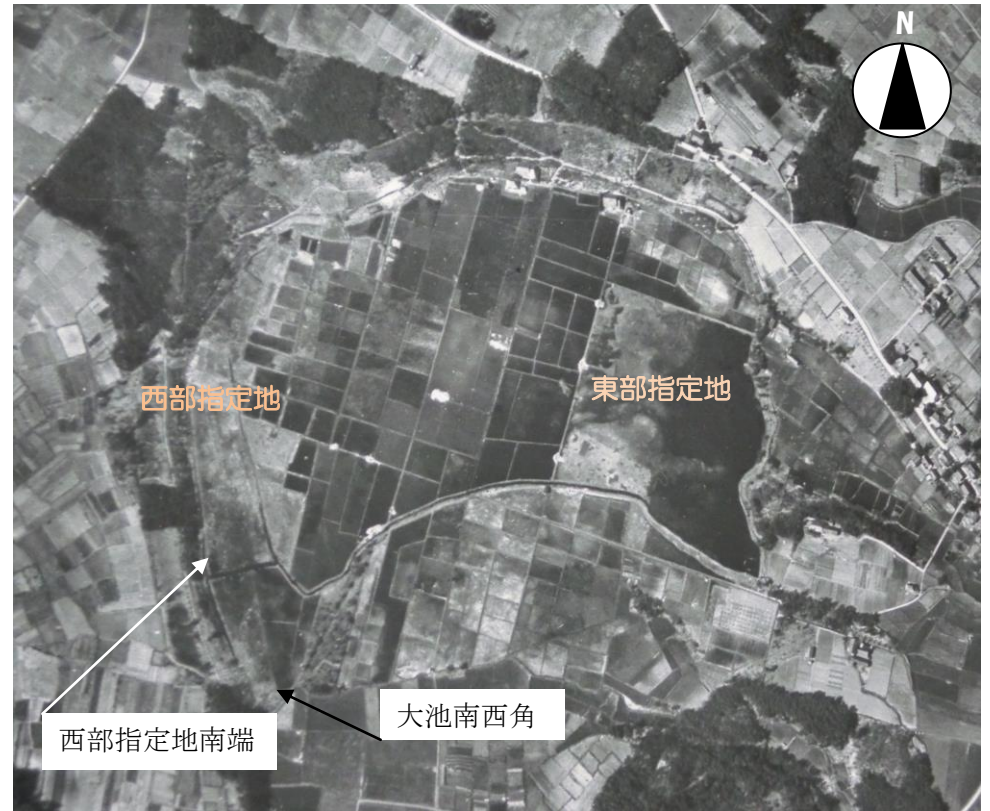
【御池沼沢植物群落の歴史】



「西坂部村下海老原村平尾村野論裁許絵図」個人蔵 写真提供・四日市市立博物館

上の絵図は、元禄2年（1690）に起きた、西坂部村と下海老原村、平尾村の土地争いの裁判の時に作られた裁許絵図の写しです。次頁の写真は、昭和23年（1948）4月に撮影された御池沼沢植物群落周辺の航空写真です。

絵図では、現在の御池沼沢植物群落および周囲の水田が、『大池』という池として描かれています。絵図と写真とを見比べると、『大池』の範囲は、戦後まで地形や地境として残っていたことがわかります。東部指定地の南や東のラインや、東部指定地と西部指定地をつないでいた水路、河岸段丘の下端ラインが絵図と写真とよく対応していることがわかります。



この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである
(承認番号 平29部複、第21号)

また、『大池』の南西角は、河岸段丘に沿って、西部指定地の南端よりさらに南に延びていた様子も写真からは読み取れます。

さらに、絵図では、『大池』の水域は東西に分かれるように描かれており、池の中央部はどちらかといえば水が深くない場所であったことが推測されます。このように水域が分布していたため、東部指定地と西部指定地の間の部分が水田化され、現在の御池沼沢植物群落の指定地が残されたと思われます。

【西部指定地で見られる植物】

**ホザキノ
ミミカキグサ
(タヌキモ科)**

湿地に生える多年草の食虫植物。泥の中に1mmほどの小さな袋状の罠をもっており、これで小型の動物プランクトンを捕まえて消化する。



**ミカツキグサ
(カヤツリグサ科)**

山地の湿原に生育する多年草。白色の小穂を三日月に見立てたことから名前がついた。



**モウセンゴケ
(モウセンゴケ科)**

湿地に生える多年草の食虫植物。杓子状の葉の表面に生えている多数の腺毛の先から粘液を出し、小昆虫を捕まえて消化する。白い花を咲かせる。



**サギソウ
(ラン科)**

日当たりの良い湿地に生える多年草。シラサギが翼を広げたような形の白い花をつける。



**トキソウ
(ラン科)**

日当たりの良い湿地に生える多年草。紅紫色の花を1個つける。



**ミズギボウシ
(ユリ科)**

日当たりの良い水際の溝や湿地に自生する多年草。高さ50cmほどの花茎(かけい)の先に紫色の花を数個つける。



**シラタマホシクサ
(ホシクサ科)**

湿地に生育する一年草。白い小さな花が集まった金平糖のような頭花をつける。東海地方の固有種。



**ヘビノボラス
(メギ科)**

初夏、黄色い花をつけ、秋には赤い実が熟す。枝に鋭いとげがある。



**カンガレイ
(カヤツリグサ科)**

水辺に生育する多年草。茎の断面は三角形で、高さは70~100cmになる。夏に茎の先端に花序がでる。



**ヤマラッキョウ
(ユリ科)**

秋に、茎の先に紅紫色の花を球状に咲かせる。鱗茎は小さく味もよくない。

**サワシロギク
(キク科)**

日当たりのよい湿地に生える多年草。白色の花を咲かせる。



**ノカンソウ
(ユリ科)**

野原や溝の縁に生える多年草。橙赤色のユリ形の花を咲かせる。



**サワギキョウ
(キキョウ科)**

絶えず地下水の湧き出しているようなところに自生し、鮮やかな紫色の花を咲かせる。



**ヤチヤナギ
(ヤマモモ科)**

亜寒帯から寒帯の湿地に多く生育する落葉低木。雌雄別株で、御池沼沢には雄株しかない。葉はレモンのような香気がある。

<凡例>

- : 中間湿原
- : 低層湿原
- : その他の湿原
- : 乾性草木
- : 水面

0

50m

